

国語科（言語文化）学習指導案

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1 履修単位数 | 3 単位 |
| 2 実施日時 | 令和 7 年 1 1 月 5 日(水) 第 3 時限 |
| 3 学 級 | 1 年 ○○HR (35 名) |
| 4 使用教科書 | 高等学校 『言語文化』（数研出版） |
| 5 単元（題材）名 | 「良い」とは何かを考える——表現（「書くこと」）につなげる古典学習 |
| 6 単元設定の理由 | |

(1) 生徒観

本ホームルームは、授業者が担任を受けもつ応用クラスであり、生徒一人一人の学びへの意欲は高く、前を向きしっかりと授業を聴くことができる。しかし、概ねペアやグループなど対話的な学習にも積極的に取り組もうとする姿勢はあるが、苦手意識をもつ生徒もいる。また、教材の内容を理解することはできて、それを積極的に自分の知識や体験と結びつけ、より深く理解し表現しようというところまでは至っておらず、作品を価値づけるような経験も不足している。

(2) 教材観

本単元は、中学校での既習教材である「春はあけぼの」再読を含め複数テキストを読み、表現課題に取り組む過程で、古典作品の価値について考える構成とした。三田村雅子は、『枕草子』を、生活の場そのものの資料ではなく、枕草子という言語空間の中に開かれ、その中でしか存立しえない世界であると述べ、「中宮賛美」に集約されていくこれまでの論理を問い直す視点を示している（武久康高）。古今和歌集の和歌に見られる類型化された表現形式と比較すると、「随筆」というジャンルを切り開いた枕草子の革新性が実感できる。その革新性によって、生徒自身が古典を身近に感じ、価値づけるうえでふさわしい教材だと考える。

(3) 指導観

三つのテキスト理解（「春はあけぼの」、古今和歌集の和歌 16 首、枕草子跋文）を通して、枕草子が常識を打破するような新しい表現形態への挑戦であったことを発見させる。さらに、「当たり前とは異なる良さ」を軸に、生徒自身が自分にとっての「良いもの」を考察するなかで、作者・清少納言と自己の価値観を照らし合わせ、共通点や相違点を探ることを狙いとする。

7 単元目標

- 「春はあけぼの」と古今和歌集の和歌を比較し、四季の描き方の違いを指摘することができる。
〔知識及び技能〕 (2) ウ
- 「当たり前とは異なる良さとは何か」を軸にして、「自分にとっての良さ」と「枕草子の良さ」が結びつくか否かを考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1) ア
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
〔学びに向かう力、人間性等〕

8 本単元における言語活動

「私にとっての良さとは何か」を考え、「春はあけぼの」を評価する作文を書く。

言語活動例 イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動

9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「春はあけぼの」と古今和歌集の和歌を比較し、四季の描き方の違いを指摘している。(2) ウ	「当たり前とは異なる良さ」を軸に、「自分にとっての良さ」と「枕草子の良さ」が結びつくか否かを考えている。A (1) ア	1 積極的に古典作品と自己を結びつけようとしている。 2 学習の見通しをもち、三つのテキストを理解しようとしている。 3 「自分にとっての良さ」と「枕草子の良さ」が結びつくか否かを考えようとしている。 4 「私にとっての良さとは何か」を考え、「春はあけぼの」を評価する作文を書こうとしている。

10 指導と評価の計画（全8時間）

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (1時間)	学習の目標と流れを知り、中学校で習った「春はあけぼの」を再読し、その印象を書く。	[知識・技能] ① 「記述の確認」
第2次 (2時間)	①4名の班をつくり、『古今和歌集』春夏秋冬のいずれかの和歌を担当、同じ季節の担当と協議し、和歌を解釈する。それを元の班に持ち帰り、説明する。(ジグソー形式) (本時1/2) ②他の班の解釈やクイズの解答例を知る。	[知識・技能] ② 「記述の確認」
第3次 (2時間)	①「春はあけぼの」と古今和歌集の四季の描き方の違いを考察し、「春はあけぼの」の表現の革新性を発見する。 ②『枕草子』跋文の内容を踏まえ、作者・清少納言の心持ちを知る。	[思考・判断・表現] ①「記述の分析」
第4次 (3時間)	①表現課題(「良い」とは何かを考える)について説明を受け、授業者のモデル発表を聴く。 ②「私にとっての名作」や、「私にとっての〇〇」を想定し、それを踏まえて「春はあけぼの」を評価する作文の構想を練る。(生徒同士の相談あり) ③45分で作文を書く(ループリックを見せる)。 ④その後も授業者が随時フィードバックを行い、作文の内容を生徒の納得のいく形に近づけていく。学習の感想(気づきや難しかった点)を、アンケートに書くよう指示する。	[主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」

11 本時の目標

・古今和歌集の和歌を分担して解釈・説明し合い、春夏秋冬16首全体の内容を理解する。

12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 10分	学習内容を知る。 前時からの学習内容を想起、整理する。	第4次までの流れを説明。(PPTで簡潔に)		
展開 34分	本時の流れと目的を理解する。 班をつくり、担当を決める。 同じ季節の担当者と協議し、『古今和歌集』の和歌クイズへの答えを相談する。 元の班で担当作品を説明し、聴くことで、他の季節の作品も理解する。	ジグソー学習の流れを説明した後、班を作り、教材を配付し、担当を決めさせる。 担当作品について、設問理解、内容理解、説明準備をするよう指示する。 一人4分以内で説明させる。	「知識・技能」② 文語のきまりや訓読のきまりに留意し、他と協力して作品の解釈を深めているかを分析する。	「記述の分析」 ワークシート
まとめ 1分	次時の流れを知る。	次時に向けて、学習の見通しを持たせる。(PPTで簡潔に)		

13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	作品の解釈を深めたうえで、16首の和歌に共通する類型的な要素を考えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	設問理解ができていないかを確認し、内容理解でつまづいている場合は、間違いがないのがよいのではなく、自分なりの読みができるのがよいのだと強調する。

【参考資料】

- ・「高等学校学習指導要領」(平成30年告示)解説 国語編 文部科学省 平成30年7月
- ・平成29年度徳島県高等学校教育研究大会 国語学会 参考資料② 高知大学 武久康高